



埼玉県マスコット  
「コバトン」

令和6年（2024年）産



# 麦類の生育概況 vol.6

（令和6年（2024年）5月9日現在）  
埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎ 気象概況：4月の平均気温はかなり高かった。降水量は周期的な降雨があり平年並であった。日照時間は少なかった。
- ◎ 生育状況：出穂期は平年並からやや遅れた。全体的に生育量が多く、軟弱な生育となっており、一部で倒伏が見られる。また、赤かび病の発生が散見される。
- ◎ 今後取るべき技術対策
  - ・ 排水対策：排水機能維持のため、明きよ・排水路の補修を行う。
  - ・ 雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギ等、収穫物に種子が混入する恐れのある雑草は、抜き取りを徹底する。
  - ・ 適切な収穫：赤かび病の発生が懸念されるため、適期収穫と速やかな乾燥に努める。また、著しい倒伏や赤かび病が多発した場合、健全ほ場と刈分けを徹底し、収穫物を混ぜない。

## 1 気象の概況

4月の平均気温は月平均では 2.9℃高く、熊谷地方気象台観測史上1位の高温であった。降水量は、第1、2、5半旬で多い他は少なく、月合計では平年比74%であった。日照時間は、第3半旬が多く、第4半旬が平年並であった他は少なく、月合計では平年比84%であった。

## 2 生育の概況

### （1）センター内生育相

#### ア 小麦（さとのそら：11月24日播種）

草丈は平年（暖冬であった過去3か年平均）並で、莖数は平年を上回って推移していたものの、弱小莖の夭折が急速に進み、4月25日調査時点で平年比106%となった。主稈総葉枚数は平年より0.5枚多くなった。

出穂期は平年より2日遅い4月12日であった。出穂期以降高温に経過し、5月も平年より高温傾向となる予報のため、成熟期は平年並～早まる見込みである。

#### イ 大麦（彩の星：11月24日播種）

草丈は平年並、莖数は平年を上回っていたものの弱小莖の夭折により減少し、4月25日調査時点で平年並となった。主稈総葉枚数は平年より0.3枚多

くなった。

茎立期は平年より6日早かったものの、3月の気温がやや低く経過したため出穂までに時間を要し、出穂期は平年より3日遅い4月3日となった。出穂期以降高温に経過し、5月も平年より高温傾向となる予報のため、成熟期は平年並～早まる見込みである。

## (2) 県内全般

2月からの定期的な降雨により土壌水分が高めに推移してきたことから、施肥窒素が吸収され、葉色が濃く生育量（稈長や穂数）は多く、軟弱傾向の生育となっている。このため、4月9日、19日の強風の影響で倒伏の発生が散見される。一方、追肥が実施できなかったほ場では葉色が淡く生育量も少ない。また、一部では激しい湿害のため生育が抑制されているほ場も見られるなど、ほ場の管理状況によって生育に差が生じている。

病害では、茎立期以降やや低温の時期があったため、うどんこ病の発生が遅く、上位葉への進展は進んでいない。また、晩霜による凍霜害の発生はほとんど見られなかったが、多雨傾向のため赤かび病の発生は引き続き懸念される。

本年の熊谷のアメダスデータから推定される赤かび病子のう胞子飛散好適日は、過去10年で2番目に多くなっています。また、11月下旬～12月上旬に播種した「さとのそら」の出穂期が4月10日～15日頃とみられ、最も感染しやすい開花期（出穂7～10日後）と子のう胞子飛散好適日が完全に一致しているため、赤かび病の多発生が懸念されます。

【埼玉県病害虫防除所 防除情報「ムギ類赤かび病について」（令和6年4月26日）より】

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

1か月予報（気象庁5月9日発表）では向こう1か月の気温は高い確率が80%、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込みである。また、3か月予報（同4月23日発表）では、6月の気温は高く、降水量は平年並の見込みである。

### (2) 生育予測

出穂期は平年並からやや遅れたが、5月の気温は高いと予報されていることから、成熟期は早まると見込まれ、大麦では5月中旬、小麦では5月下旬頃から収穫が始まると見込まれる。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 排水対策

登熟期の高温や集中豪雨などは、麦類の根にダメージを与えて枯れ熟れを引き起こす要因となる。このため、再度、明きよのつまりの除去や排水路との連結の確認を行い、排水対策を徹底する。

### (2) 雑草種子の混入防止

カラスノエンドウやカラスムギはグレーダ等で選別できないため、発生している場合は、必ず収穫前に抜き取りを行う。

### (3) 適切な収穫の徹底

本年は、赤かび病の多発が懸念されている。刈り遅れにより降雨にあたると赤かび病の進展を助長するため、天気予報に留意して適期収穫を徹底する。

収穫前にほ場を注意深く観察する。赤かび病の発生が多いほ場や発生ほ場で倒伏が見られる場合は健全粒へ進展するリスクが高いため、被害を受けていない麦と刈り分けを行う。

強風や降雨の影響により倒伏が発生している。倒伏したほ場は収穫時期の判断が困難となるので、倒伏程度の軽い部分を優先して収穫し、刈り遅れや穂発芽粒の混入による品質低下を防ぐ。

### (4) 適切な乾燥・調製作業

収穫後は高温多湿条件で保管することなく、速やかに乾燥を行う。グレーダは麦種ごとに適切な網目を使用し、適正な流量を保って調製する。

### (5) 機械類の整備

余裕を持った作業計画は農作業安全につながるので、コンバインや乾燥機等の清掃や点検を早めに行い、収穫作業に備える。

## 解析・考察に用いた具体的数字

### 1 4月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	13.3	11.5	18.1	17.4	8.9	6.2	17.5	15.9	19.3	33.5
2	14.7	12.5	20.1	18.4	9.5	7.1	30.0	17.4	23.5	33.3
3	16.5	13.4	23.7	19.5	9.7	8.2	0.0	16.3	48.7	32.4
4	18.5	14.4	24.4	20.4	12.8	9.3	2.0	14.2	31.2	31.2
5	17.0	15.3	21.3	21.3	13.9	10.1	17.0	13.5	13.8	31.6
6	21.1	16.2	26.9	22.3	15.9	10.9	1.0	13.5	28.7	33.2
平均	16.8	13.9	22.4	19.9	11.8	8.6	67.5	90.7	165.2	197.1

注. 半旬数値は熊谷气象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は气象台値。

### 2 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差
さとのそら	4月5日	64.0	104	5.9	94	11.1	0.8	390.0	114	59.0	0.4
	4月15日	81.0	104	4.4	97	11.1	0.5	493.3	101	47.1	-1.7
	4月25日	92.1	100	4.3	106	11.1	0.5	706.4	103	47.4	1.2
彩の星	4月5日	81.7	91	10.0	123	10.2	0.3	633.7	109	17.4	0.5
	4月15日	99.1	99	6.6	88	10.2	0.3	808.7	104	23.3	2.8
	4月25日	101.1	101	6.7	100	10.2	0.3	1076.0	112	28.5	2.4

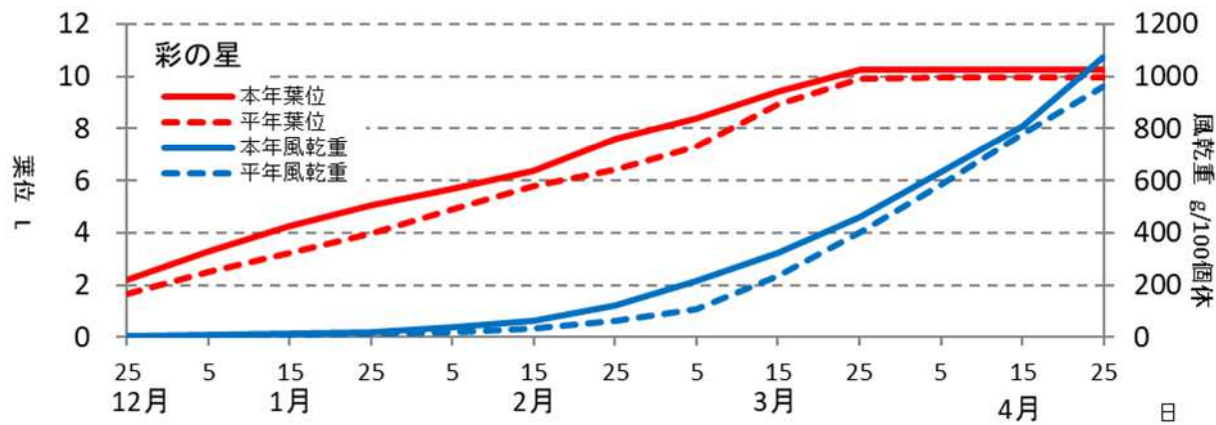
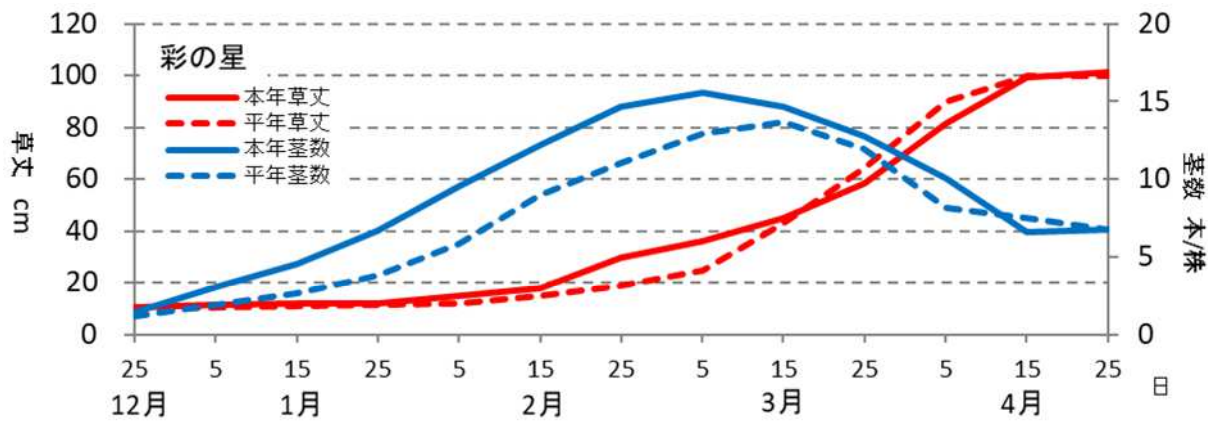
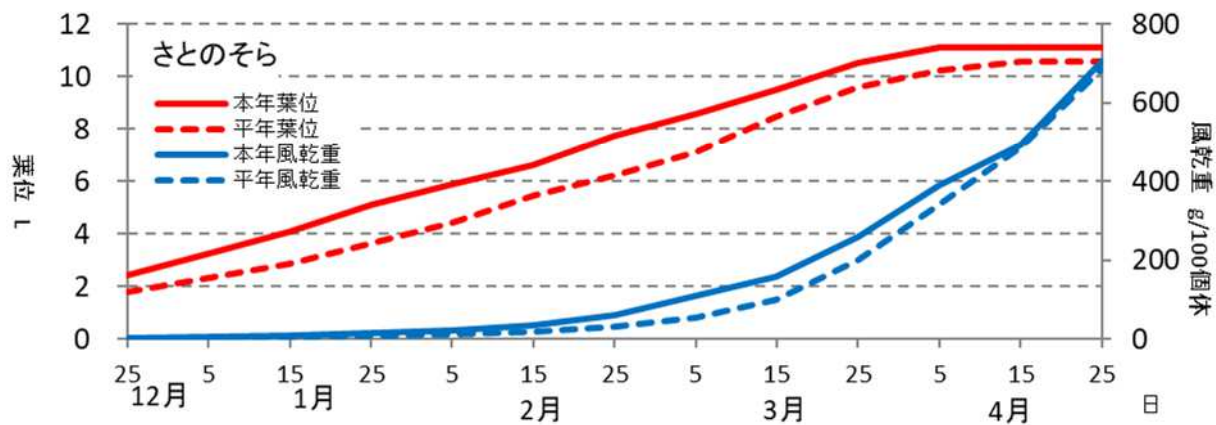
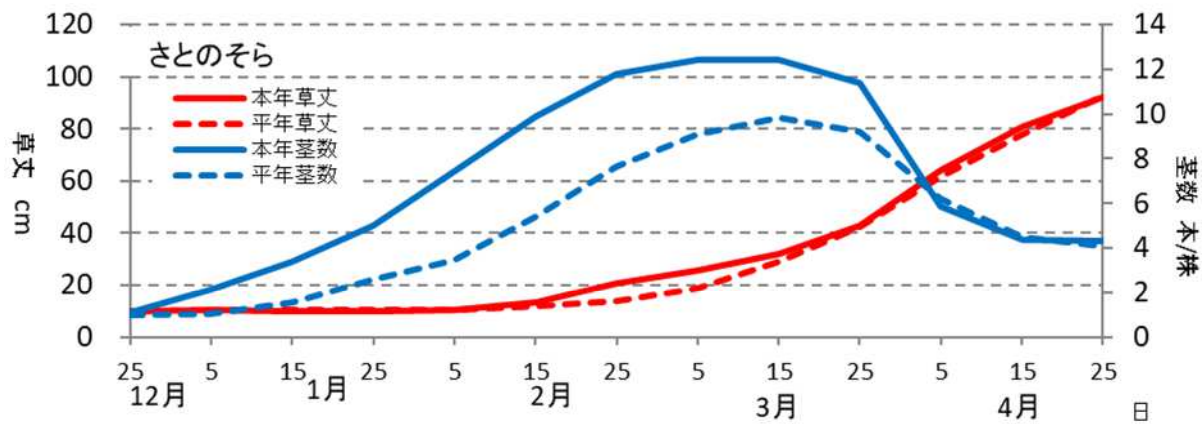
注1. 平年値は、さとのそら、彩の星とも暖冬であった令和2～4年播種の3か年平均。以下同様。

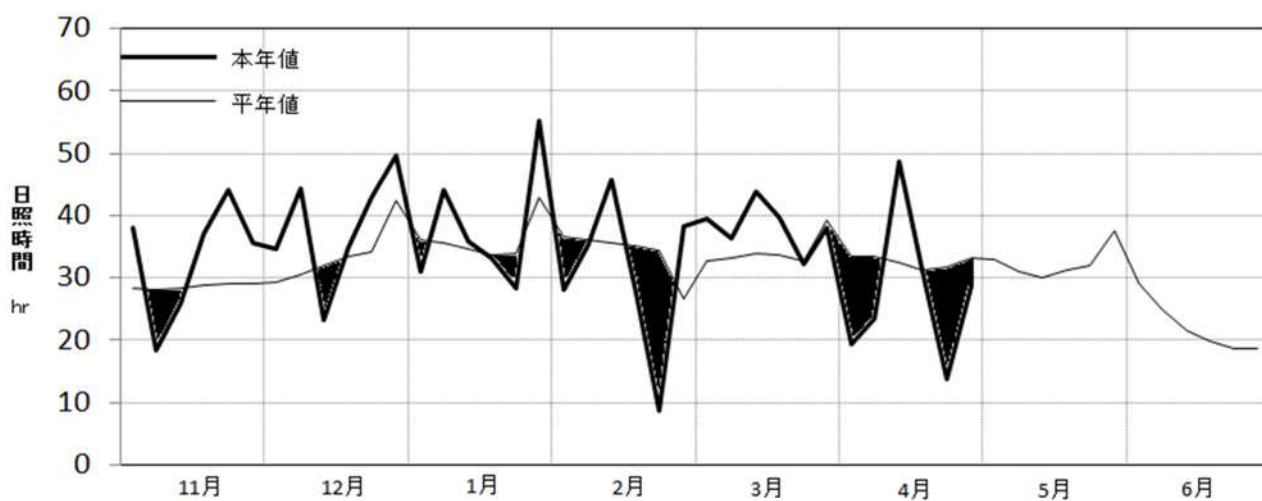
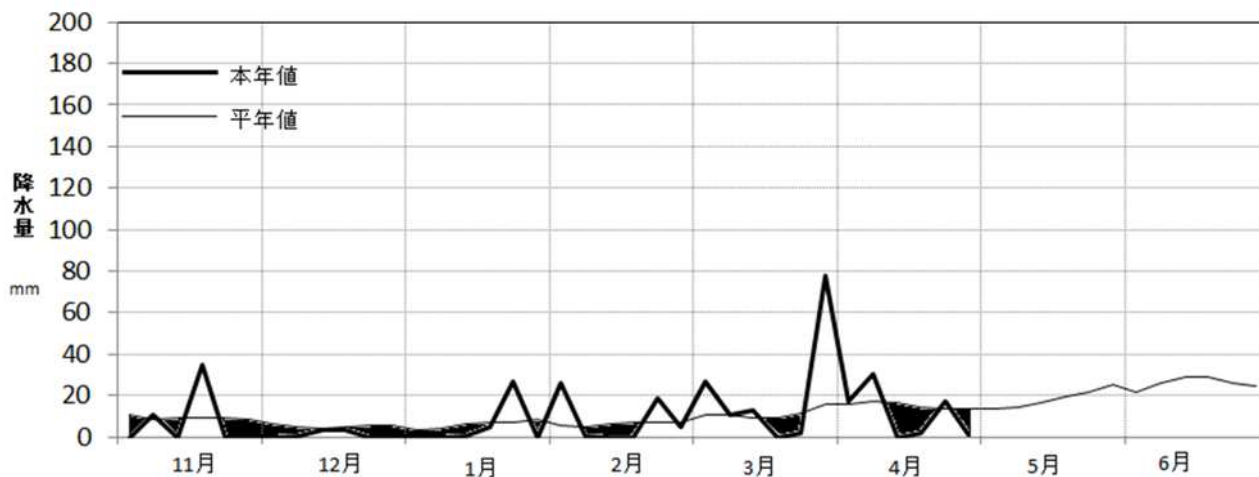
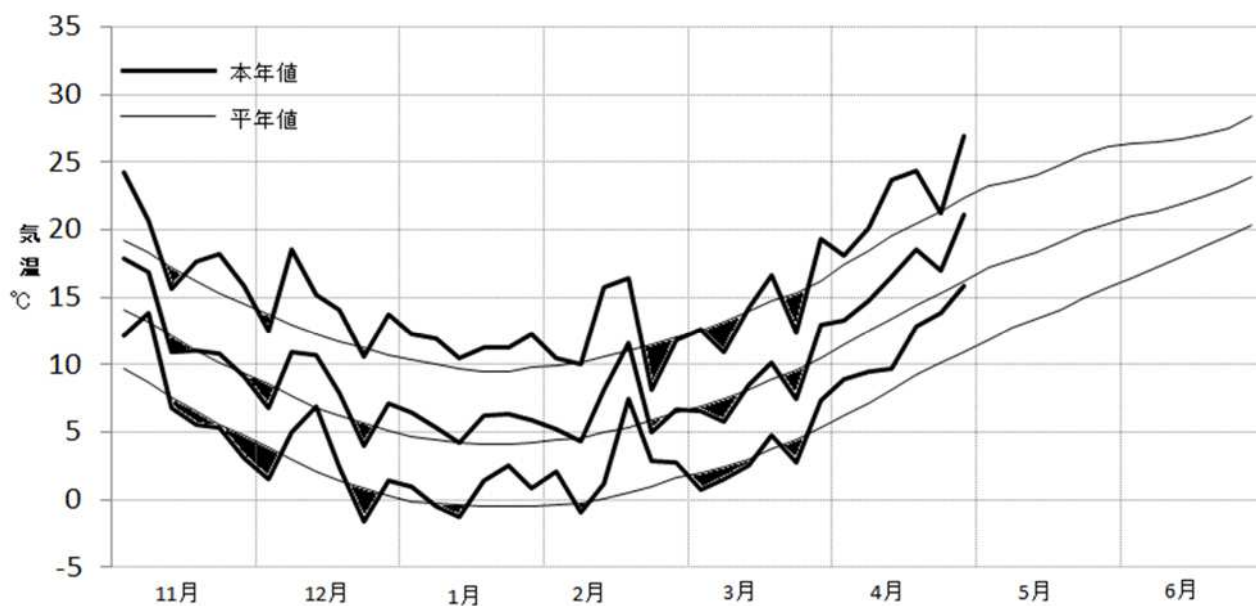
注2. 風乾重は100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

### 3 出穂

品 種 名	茎立期			出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
さとのそら	3/14	3/14	0	4/10	4/7	3	4/12	4/10	2	4/15	4/12	3
彩の星	2/29	3/6	-6	3/31	3/26	5	4/3	3/31	3	4/6	4/2	4

#### 4 生育経過





令和5年播（6年産）冬作期間気象図  
（熊谷地方気象台測定値）